52. 後悔 Repentance

自分が失敗したときですら、それもまたひとつの機会になりえることに気づいていましょう。
あなたが自分自身の真実に背いてしまい、自分のハートで感じていることを妥協してしたと気づいたときは、あなたのなかを涙が深く流れるのを許すことです。そうすればそれは変容になりえます。

スーフィーの伝統のなかで、アル・ヒラジ・マンスールに比べられる人はほかに誰もいない。
いわゆる宗教的な人びとによって、過去に多くの人びとが殺されてきた。イエスは十字架に架けられただけだが、マンスールははらばらに切り裂かれた。彼は十字架に架けられた。そして、まず彼の足が切り落とされた――
そうして彼の首が切られた。

が、マンスールはどのような罪を犯していたのだろう？ 唯一の罪は、彼が " アナル・ハック！ " と言ったことだった。
それは「私は真理だ。私は神だ！」という意味だ。インドでは、彼は何世紀にもわたって崇拝されていただろう。だが回教徒たちにはそれが我慢できなかった。

一万人の人びとがマンスールに石を投げるために、彼を笑い者にするために集まっていた。マンスールは笑っていた。自分の足が切り落とされたとき、彼は自分の血を自らの手に受けた……すると、誰かが彼に、なにを

彼らが彼の手を切り落とし始めると、彼は言った。「ちょっと待ってくれ！ いまは私に祈らせてほしい、手がなくなったら、それはむずかしくなる」そこで、彼は空を見て、神に言った、「あなたは私をだますことはでき

人びとはあざけって、彼に石と泥を投げつけていた。そしてマンスールは笑い、微笑んでいた。だが突然、彼は泣き出した……シブリ、彼の友人、彼の弟子が、薔薇の花を投げたからだ。
再び人びとは謎に包まれた。そして彼らは、どうしてなのかとたずねた。マンスールは言った。「石を投げている人びとは、
自分たちがなにをやっているのか知らない。だがシブリは知っている――彼は知らなければならない。彼が神から許しを得るのはむずかしいことになるだろう」
後になってシブリは、なぜ薔薇の花を投げたのかときかれて、こう言った。「私は群衆が恐かった。もし私がなにも投げなかったら、彼らが私に対して暴力を振るうにちがいないのが恐かった。私は石を投げることはできな
マンスールの涙はシブリを完全に変えた。彼にとっての変容になった。彼にとって、それには少なくとも十二年はかかった。
浮浪者、乞食のようにさすらい、これ以上はないほどにハートを引き裂かれる苦悶のうちに嘆き泣く十二年間。全生涯、彼は後悔した。彼は言ったものだ。「私がマンスールを殺したのだ。あそこにいたほかの誰にも責任は

もしあなたが責任を理解したら、後悔はあなたのなかの、非常に、非常に深い現象になりうる。そうなったら、小さなことでも、もしそれがあなたの根まで深く入っていったら、もし涙があなたの目からだけではなく、あな

これこそマスターに、偉大にマスターにしかできないことだ。マスターはやりつづける――生きている間でも、死のうとしている間でも、あるいはすでに死んでいてさえも――人びとを変容させるためにあらゆる機
UNTIL YOU DIE, PP.218-222

Revision #3
Created 5 October 2024 23:15:21 by ゆう
Updated 6 October 2024 00:48:46 by ゆう